

磯部圭太です。平成29年度予算案に関連して、市長、教育長に順次質問します。

はじめに、対話による創造の取組について、伺います。

本市の将来人口推計によると、本市の人口は2019年から減り始めると予測されています。同時に2025年には65歳以上の高齢者の人口が約100万人となり、一方で30歳代から40歳代の子育て世代の市民の方々は、このまま何も手を打たなければ、今から約25万人減り、そして、毎年、生まれる子どもの数も、今より約7千人減ってしまうと予測しています。

このように近い将来、人口が減少に転じ、高齢化も急速に進んで行く中で、社会保障費は伸び続け、今後は水道や下水道、生活道路などの市民生活の生命線であるインフラの維持にかかる費用も増えていくことが予測されています。

従って、仮に人口が減ったとしても、税収が減少に転じない工夫、それによって市民の方々に対する行政サービスの質を落とさないことが本市には強く求められています。

そのためには、これまでの行政主導の都市経営の発想を抜本的に変え、民間と行政が対等な立場に立ち、対話と協働・共創によって地域課題を解決したり、経済を活性化していくための場や仕組みを創ることが必要と考えます。

現行の中期4か年計画においても、「対話による創造」が横浜の未来を切り拓くうえで不可欠となる3つのポイントの一つとして掲げられ、その中で企業やNPOなど民間との対話によって新しい課題解決の手法を探る「共創フォーラムの開催」があるのも、その一つの表れと考えます。そこで、

(1) 民間と行政との対話の場である「共創フォーラム」の取組状況について伺います。

市民や企業の方々と、本市の課題についての認識を共有し、横浜の未来を見据え創造的に対話を重ねていくことが大変重要です。

近年、こうした対話を通じて社会的課題の解決に取り組む潮流が、企業、NPO、大学など幅広く定着してきています。これから、新たに発生する様々な課題に向き合うために、

(2) 今後、具体的な課題解決につながる対話の場を充実させていく必要があると考えますが、市長の見解を伺います。

様々な課題解決に取り組むことを通じて、この横浜に新しい価値が創造されていくことを期待しています。

次に、子どもを支える地域の取組の推進について、伺います。

先日の質疑でもありましたが、近年、子どもの貧困が大きな社会問題となっており、その対策は急務であります。

厳しい環境に置かれている子どもたちを少しでも支えたいと、地域の方々による、食事の提供を含む子どもの居場所づくり、いわゆる「子ども食堂」を始めとした地域の取組が、全国的にも大変盛んになっています。

本市でも、子ども食堂などの機運の高まりを受けて、29年度予算案において、子どもを支える地域の取組を推進するためのモデル事業を2区で実施することとしています。

2つの区における、区社会福祉協議会を中心とした子ども食堂の創設や継続を支援するモデル事業を通じて、今後の子ども食堂等に対する効果的な支援方策を検討する予定と聞いています。本市では、すでに40か所程度の子どもの食堂があり、今後も地域の取組は、ますます広がっていくことが予想されます。そこで、

(1) 全市的に子ども食堂などの地域の取組を支援していくことが必要と考えますが、市長の見解を伺います。

地域の取組の担い手の方には、子どもとの何気ない会話や、子どもの見せる態度の背景にある、子どもの思いに対する想像力を持ち、その気持ちに寄り添うことが求められます。そこで、

(2) 地域における子どもへの支援に当たっては、担い手の人材育成が重要であると考えますが、市長の見解を伺います。

本市は、教育、福祉、子育て支援など、子どもたちの育ちを支え、自立に向けた力を育むための、様々な支援メニューを持っていますが、これらの支援を、必要な子どもたちに届け、子どもの貧困対策を進めていくためには、地域の取組との連携がより一層重要になります。

地域の方々の「子ども達のために」という思いを尊重した上で、支援につなぐ役割を果たしていただけるよう、きめ細かいサポートを要望いたします。

次に、猫の不妊去勢手術の推進について、伺います。

この事業は、猫の不妊去勢手術費用のうち、5,000円を上限として補助金を交付するもので、補助頭数や予算総額は他の自治体では類を見ない規模であると聞いています。

事業効果を高めるため、事業の内容や補助頭数について、検討と工夫を重ねているということですが、これまで飼い猫及び飼い主のいない猫を対象に行ってきた補助を、29年度予算案においては、飼い主のいない猫に限定するとしています。そこで、

(1) 補助金の交付対象を飼い主のいない猫に限定する理由について伺います。

飼い主のいない猫の不妊去勢手術は、市民ボランティアの方々の活動によって成り立っています。このような市民ボランティアの活動をさら支援していくべきではないかと考えます。そこで、

(2) 今後の市民ボランティアの活動支援について伺います。

私も捕獲器を持っており、今飼っている猫はすべて、飼い主のいない猫を捕まえて手術をした上で飼い猫にし、室内飼育しています。

飼い猫であっても、外飼いなどで地域の課題となるケースもあります。

また、ペットが飼い主の意図を超えて増え、問題化すること、いわゆる多頭飼育崩壊などの特別なケースへの支援については検討を行うことを要望いたします。

次に、横浜開港当時の石積み護岸について、伺います。

横浜では、赤レンガ倉庫や開港記念会館をはじめとして、横浜開港後から発展してきたまちの賑わいを示す歴史的な建造物などは、保存するだけでなく、観光やまちのシンボルとして活用されています。しかし、残念ながら横浜開港当時の状況を示すものは、あまり残っていません。

そのような中で、中区の新山下には、横浜開港時に作られた旧イギリス海軍物置所の石積み護岸が残っています。

この石積み護岸は大正時代に埋め立てられており、あまり人目に触れない状況になっていましたが、幕末・明治初期の海岸線を示す大変貴重な土木遺構だと言われています。そこで、

(1) この石積み護岸について、どのような価値があると考えているのか、教育長に伺います。

石積み護岸がある場所では、現在大型の商業施設を造る計画になっており、護岸の取り扱いが注目されていると聞いています。また、昨日までに現場の状況の変化があったようです。そこで、

(2) この石積み護岸の取扱いはどのようになるのか、教育長に伺います。

横浜に残った貴重な開港当時の遺構であるため、本市の想いをしっかりと事業者に伝えると共に、大切に扱われるようお願いし、私の質問を終わります。

ありがとうございました。